中国禅の中世日本へ与えた影響ー法相・華厳宗における受容ー

蓑輪顕量

日本の中世の時代に中国から禅宗が将来されたが、それは奈良の僧侶にも影響を与えた。法相宗の良遍は禅との異同を考え『真心要決』を著し、禅と法相との一致点を探り、法相の述べる「理心」と禅の「一心」が同一のものであると主張した。東大寺律宗の円照は著作こそ残していないが、凝然の著した伝記から円爾弁円から禅法を修学していたことが知られる。そこには円爾を介して広められた『宗鏡録』の影響が垣間見られ、天台の止観を広めるべきだと述べながら、実際には達磨禅の影響を受けていたことが見いだせる。